



## パワーのつまったうちのご飯

伊勢崎市立第三中学校 1年

大塚 政輝

「お父さん、政輝、ご飯できたよー。」水曜日の夕食、それが家族三人そろって食べられる、週に一度の僕の家楽しい夕食です。

僕の家は、レストランをしていて、夕食時は、お父さんもお母さんも仕事をしています。ふだん僕は、夕食の時間になると、ちゅうぼうのすみこのテーブルで一人、忙しそうに働いている両親の姿を見ながら、お父さんの作ってくれた料理を食べます。お父さんの作ってくれる料理は、お客さんからオーダーが入った料理を多めに作って、僕に出してくれる事が多いので、ふだんの夕食に、ふつうの家庭では、なかなか出てこない高級な肉や、エスカルゴやフォアグラなどちょっと変わった物も出てきます。大きなかまから、自分で食べる量のご飯をお皿に盛って、ナイフ、フォークで食べる。それが、僕のふだんの夕食です。友達には、「小さい時から、毎日おいしい物ばかり食べて、いいな。」とよく言われましたが、僕は、週に一度、家族みんなで色々おしゃべりをしながら食べるお母さんの作ってくれた、お父さんのプロの味とは違う家庭料理が大好きです。

水曜日の夕食の時は、僕が席につくと、お母さんが家の小さなかまを開けて、たきたてのゆげがフワッと立ちのぼるのを見ると、急におなかがすいてきて、ウキウキした気分になります。いつもはお皿にご飯を自分でよそって、ナイフ、フォークで食べる夕食も水曜日の夜だけは、お母さんがおちゃわんによそってくれて、あたりまえの事なのでしょうが、僕はおちゃわんによそわれた、たきたてのおいしそうなお米を見ると、心の中で「やっぱり日本人は、ちゃわんとはしでしょー。幸せー。」とってしまいます。おちゃわんから、たきたてのお米のにおいとゆげが、立ちのぼり、つつい、いつも鼻でスーッと思いっきり吸いこんで、家族三人で「いただきまーす。」と楽しい夕食がはじまるのです。

中学生になって、夏休みでも毎日部活があり、朝早く起きて、朝食を作って、僕のお弁当もいろいろとどりで、おいしそうに作ってくれるお母さん。

お母さんは、僕が学校でボーッとしていて、先生に注意されても、勉強に力が入らなくても、友達とちょっといやな事があっても、部活でクタクタになっていても、「変わってあげることはできないんだよ。自分で考えて行動しなさい。」と言います。頑張るのは、色々な事を乗り越えられるのは自分自身で、だれも変わってくれたりはいしないのです。「お母さんにできる事は、いつも政輝を応援して、いつも元気で頑張れるように、おいしいご飯を一生懸命作ることぐらいだよ。」と言います。

お母さんの思いのこもったご飯。そう思うと、ただおなかいっぱいになるだけの食事ではなく、ご飯からいろんなパワーをもらっているように思うのです。

たきたてのご飯のゆげとにおいを吸いこむ時、両親の思いが心の中に入ってくるように思うのです。「いっぱい食べて、頑張らなくちゃ！！」と思える、それがうちのご飯です。